

◎実顕地一つの実動

K 一時、一体経営というて意気込んでやりかけたが、不平不満でやめたところもだいぶあったようだネ。

S 先に立って一体経営をやってみたが、だいぶ自分の金を減らし、忙しいのに駈け回って、結局家の中からも苦情が出るし、近所からも笑われて、すっかりへこんでしまった人も知っている。なかなかあわててやっても、そうはうまくいくものではないですよ。

O 趣旨はいいが、現実はなかなかそうはいきませんネ。

A子 家のお父ちゃんなんか、よその仕事ばかりして家の仕事は遅れるし、まだ何か外にうまいことしているように言いふらされて、未だに仲間からも嫌われている。そんな人やないのにエロウ人氣が悪うなりましてな。それでもまだ懲りずに、お父ちゃんは遠いところまで手伝いに行ったりしますので、本家の姉さんから私いつも叱られていますワ。

ぎおう
祇王 そんな例はいくらでもありますね。なにぶん自分さえ良かったらの我利我利の今の世の中の流れに逆らうようなもので、ガリガリの人から見ると、物好きか、天理さんか、おせっかいに見えたり、みんな悪いこと、つまらんことに見えるのですよ。

〇〇 それよりも一般の人に好かれて、解るように、漸進的にいく方がいい。革命だとか、一体経営など刺激すること言わないで、農村改造とか、協同経営とか、今の時代のレベルに合わせて、一般に融け込んでいった方がかえって早い。研鑽と言わずに研究と言ひ、特に今度の事件などで山岸会という身ぶるいされるほど、毛嫌いされている。山岸会の名も使わない方がいい。あんまりあせって失敗すると、良いことでも嫌われる。今度またそんなことをして、あの大失敗の上にまた恥の上塗り、世のもの笑いになるだけだよ。

ぎおう
祇王 さあ、そこなんですがネ、今までにない新しいものは失敗からはじまり、失敗を積み重ねているうちに、だんだんものになっていくものですね。飛行機でも、はじめはチョット飛んで故障や事故で、今日のような重いズウタイの大きい飛行機が自由に空中に飛び回ることは、思ってもいなかった人がほとんどだったろう。

はじめから、そうそううまくいくものでない。初期の飛行家は、家族や親戚達の猛反対の中で研究し、自分でケガしたり、死んだりしたものらしいですよ。

▽▽ アメリカの名誉にかけて、国を挙げて研究して、打ち上げたロケットも、はじめから失敗の連続ですね。

ぎおう
祇王 失敗というのは、失敗したまま辞めてしまうことで、成功のための実験段階のものを見て、失敗だ、無謀だなどと嘲笑を浴びてくじけるようなことならば、はじめからやらぬ方がよい。まずやってみる。そして、これでいかねばこうする、こうしても駄目なればまたその欠陥を見出して改良していく。この失敗というのは、失敗と思うだけのことで、実は成功への実験であり、向上改善されつつある成功の積み上げと見る方が本当だと思ふ。だから今まで失敗だったと言われていることも、実は今度の僕たちの計画を組み立てるための実験資料だったということになりますね。

(「金の要らない楽しい村 ヤマギシズム生活実顕地 山田村の実況」より)